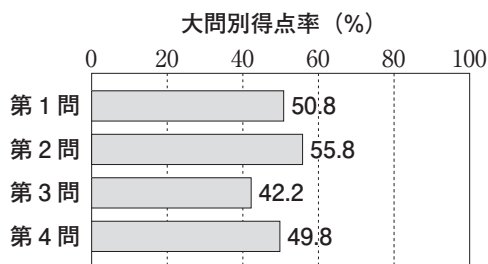
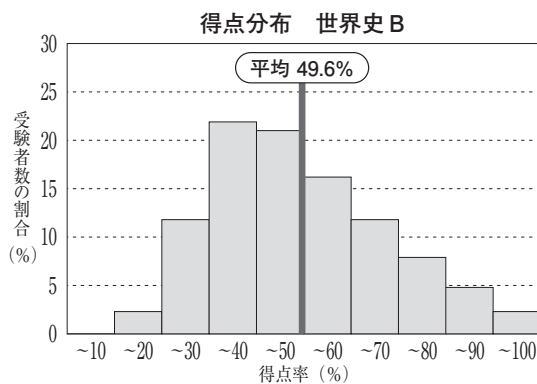


# 世界史B

近現代史のみならず、即習分野も定着させていこう。

## I. 全体講評

今回の平均点は、49.6点であった。前回に比べて2.4点低い残念な結果であった。前は正答率の最高が80%台半ばだったのに対し、今回は70%台半ばと振るわなかった。この結果の理由として、近現代史の出題が、とりわけ現代史の出題が多かったことに起因しているようだ。詳しくは、解答番号[16]、[20]、[23]に見られるように既習の古代・中世・近世史の知識が正確でないということ、また、解答番号[5]、[6]、[7]、[18]に見られるように現代史の基本的な問題が出来ていないことで、得点が伸び悩んだのであろう。さらに、解答番号[18]、[20]に見られるように、地図で正確な位置が押さえられていないことが平均点を下げる要因となった。地図対策を早急に行う必要がある。



## II. 大問別分析

### 第1問 世界史上の支配者・指導者

現代史の学習を早急にはじめよう。

第1問の得点率は50.8%であった。得点率が伸びなかったのは、今回すべての問題の最低値であった正答率25.9%のパキスタン独立を問う問5をはじめとして、フランスの核保有を問う問6とウィルソン大統領について問う問7が36.1%、34.1%と低迷した結果である。これらの問題は現代史の基本である。現段階では出来なかったとしても、絶対に身につけなければいけない知識である。早急に現代史学習の充実を図っていくべきである。カルヴァンに関する誤文を問う問3は70.9%、陳勝・呉広の乱を問う問9は70.8%と高い結果であったことは、予想を超えたもので、今回もっとも喜ばしい結果であった。また、鄭和の南海遠征と三藩の乱を問う問1の61.0%、玄奘に関する誤文を問う問4の56.6%、モンロー教書が出された時期を問う問8の55.7%は健闘したといえる。毛沢東に関する問2は現代史のわりには51.1%と良くできていた。

### 第2問 世界史上の暦

正誤組合せ問題は設問文をきちんと読もう。

古代から中世までの小問が7題という結果か、大問得点率が55.8%と全大問中最も高かった。今回の全問中正答率が74.0%と最も高かったのは、問4の古代ローマの護民官の設置に関する誤文の問題であった。安史の乱に関する誤文を問う問8、三圍制を問う問2も69.3%、65.6%と満足できる結果であった。問3のバビロンの位置を問う地図問題は59.3%と意外に低いものであった。古代オリエントの重要な都市の位置は正確に把握しておく必要がある。アイユブ朝を問う問1、第4回十字軍の時期を問う問5は59.1%、58.1%と健闘した。中国古代史の漢の武帝の施策を問う問7は36.4%と低かった。匈奴と突厥を混同したためと考えられる。正誤組合せ問題の場合、設問文をきちんと読む必要がある。近代ヨーロッパのフランス革命の内容を問う

正誤組合せ問題の問6も44.5%と低い結果であった。統領政府と総裁政府を混同したと思われる。中国現代史の問9は北京と南京の位置とその説明の組合せを問う問題であるが、33.1%とこの大間で一番低かった。現在の世界の重要な都市の位置は、歴史的に重要な都市と同様、きちんと場所を把握することが必要である。

### 第3問 世界史上の河川

**近現代史の大枠を押さえて、基礎的事項は正確に覚えよう。**

この大問の得点率は42.2%と全大問中最低であった。近現代史の小問が5問、東南アジア史3問ということが得点率を低くしたようである。また本来なら正答率を上げる、近世ヨーロッパのオランダ独立宣言の時期を問う年表補充問題の問5は、受験者がオランダ独立戦争が終了した年かオランダ独立が承認された年と間違えた結果が27.2%と低かった。現代史で冷戦後の出来事の誤文を問う問9も30.2%と低かった。これはイラク戦争と湾岸戦争を混同したことも影響したようだ。東方問題を問う問6も29.2%と低かった。東ヨーロッパの近現代史がきちんと整理されていない結果と思われる。蒸気機関と多軸紡績機の改良者を問う正誤組合せ問題の問7は、42.4%でスチーブソンとワットを間違えた結果のようである。東南アジア古代史の既習ずみと思われる問2の地図問題は36.3%と意外に低いものであった。扶南の位置が正確にわかっていない結果である。国の存在した正確な場所を把握する必要がある。タイの近世・近代史の問1の47.1%、南北戦争を問う問8の56.2%はそれなりの学習の結果と考える。アウクスブルクとマジヤール人を問う問4の63.8%は安心できる数字であった。ベトナムの「ドイモイ」を問う問3は45.2%で現代史のわりには健闘していた。

### 第4問 商品の世界史

**基本的歴史事項はかならず確認しよう。**

近現代史を6問含んだ大問として、得点率が49.8%は健闘した結果であった。孝文帝の均田制の実施を問う問1の58.5%、ササン朝を問う正誤組合せ問題の問2の55.6%、イタリア半島のサレルノ大学を問う問3の56.7%の以上3題の小問は、正確な知識が身につけていればもっと取れる内容と考える

と残念なものであった。この大問中正答率が68.7%と最も高かったOPECを問う問8は、中学の公民分野で学んだか高校の現代社会で学んだ結果と考える。大問中最も低かった31.4%のイギリスのアジアにおける帝国主義政策を問う正誤組合せ問題の問6は、近代史の整理がされていない結果であろう。アメリカ合衆国の現代史を問う問7、問9は42.6%、52.3%と現代史のわりには健闘した結果が出ていた。フランスの王政復古に関する時期指定の誤文を問う問4は46.2%であったが、正確な知識があれば間違える問題ではない。インドの植民地化を問う年代整序問題の問5は40.3%と残念な結果であった。基本的なインドの植民地化の流れなので、ここで覚えておこう。

## Ⅲ. 学習アドバイス

◆**歴史的に重要な場所の位置を確実に身につけていこう。**

センター試験では必ず地図の問題が出題される。基本的な国や都市の位置は正確に把握する必要がある。出題内容は、教科書レベルの基本的知識で十分に対応できるので、教科書に出ている地図をきちんと勉強すれば充分である。世界史は現代の世界に直結している。海外の時事的なニュースにも関心をもとう。

◆**現時点の学力を正確に把握しよう。**

どのような模試であれ、模試は受けた後の活用が大切である。模試の結果を分析して現時点での学力を正確に判断し、これからの学習計画にそれを反映させ、効果的な学習に努めよう。